

*** 足尾関連の立松和平著作紹介 ***

◆足尾の植林・環境問題をテーマとした主なエッセイ

- 『野生の水 ヤポネシア水紀行』スコラ 1991 掲載 「無垢な水」「渡良瀬遊水地」
 『渡良瀬有情』立松和平・東京新聞写真部著 東京新聞出版局 1992
 『澄んだ川の水が私の心 ヤポネシアの四季』文芸社 2000 掲載 「百年の植林」「足尾の土」「足尾の植林 春のことぶれ」
 『立松和平日本を歩く2 関東を歩く』勉誠出版 2006 掲載 「渡良瀬遊水地」「わたらせ渓谷鉄道」「渡良瀬川源流」「足尾の土」「足尾に樹木を植えよう」「足尾の植林 春のことぶれ」「雨の植林」「心に木を植える」
 『象が眺める』柏鷲社 2006 掲載 「足尾にいくまでのこと」「足尾の一丸旅館」
 『地球の息』柏鷲社 2006 掲載 「増えすぎたシカ」「渡良瀬に木を植えよう！」
 『いい人生』野草社 2011 掲載 「足尾に緑を育てる」(「子供時代の足尾の記憶は、美しい水ばかりだ」「春の植林」「足尾に木を植える季節」「百万本植樹」かかげ十一年「田中正造は何もかもを捨てるまで闘った」「足尾の桜」「足尾の森が紅葉した」)

【参考】足尾の緑化に関する図書

- 『よみがえれ、足尾の緑』随想舎 2001 掲載「記念講演 足尾から学ぶこと」
 『足尾の緑』Vol.1-2003「講演録 足尾の森と古事の森」随想舎 2003
 『足尾の緑』Vol.3-2007「講演録 生き方の応援」随想舎 2007
 『足尾の緑』Vol.4-2010「特集・追悼立松和平」随想舎 2010
 『森よ、よみがえれ 足尾銅山の教訓と緑化作戦』秋山智英著 第一プランニングセンター 1990

◆足尾銅山や鉱毒事件を題材とした小説

- 『恩寵の谷』新潮社 1997
 『毒 風聞・田中正造』東京書籍 1997
 『白い河 風聞・田中正造』東京書籍 2010

◆足尾の地を舞台とした小説

- 『赤く照り輝く山』雑誌「文學界」1978年12月号
 『閉じる家』文芸春秋 1979
 『火の車』集英社 1979
 『冬の真昼の静か』角川書店 1980 掲載「石の中」

◆足尾銅山や鉱毒事件などに関するエッセイ

- 『わが百年の孤独』雑誌「すばる」1983年7月号
 『魂の走り屋』砂子屋書房 1984 掲載 「わが「百年の孤独」「父祖の地」
 『ヤポネシアの旅』主婦の友社 1986 掲載 「足尾悲歌」
 『原風景文集1山の篇』随想舎 1994 掲載 「無垢な水」「将棋の原風景」「父祖の地」「わが「百年の孤独」「ラフ・スケッチ」「サクラ乗車の挫折」「足尾悲歌」「幼い日の記憶」「祖母との旅」「足尾から「抗夫」を幻視する」
 『水の星のさざ波』学習研究社 1993 掲載 「第五章 “近代”に翻弄された町」(「なぜ足尾で泳げなかったのか」「消えてしまった村」「鳥の目で眺めた死の世界」「隠される歴史と、消えない傷痕」)・「第六章 母なる渡良瀬川の悲劇」(「洪水が毒を運んでくる」「川から魚が消えた」「川が暗黒の宇宙に」「民を殺すは国家を殺すなり」「いけにえ」となった谷中村」「去るも地獄、とどまるも地獄」「ついに強制破壊が…」「国成りて山河破る」)
 『スプーン一杯のビール』河出書房新社 2000 掲載 「父祖の地の栄光と消滅」(「足尾から『抗夫』を幻視する—夏目漱石」「恩寵の人々」「四つの河」)『恩寵の谷』を書き終えて「小説「毒—風聞田中正造」連載を終えて」
 『一人旅は人生みただい』アーツアンドクラフツ 2001 掲載 「曾祖父の伝承」「足尾の人」「雨の植林」「恩寵の鐘」

◆その他

- 『市民塾〈足尾〉講演記録集 なぜ、今、足尾か』下野新聞社 1983 掲載 「父祖の地〈足尾〉を語る」
 『百霊山巡礼第一集』東京新聞 2006 掲載 「庚申山 庶民のお山巡り」